

鹿鳴館

2014.6/19 ~ 22

レパートリー
Repertory

Rokumeikan

中劇場 | 4回公演 | 全4幕(日本語上演/字幕付)

初演: 2010年6月24日 / 東京 / 新国立劇場(中劇場)

作曲: 池辺晋一郎 Ikebe Shinichiro (1943-)

原作: 三島由紀夫 Mishima Yukio

上演台本: 鶴山仁 Uyama Hitoshi

プロダクションについて

三島由紀夫の文学と、池辺晋一郎の豊饒な音楽の融和によって生み出されたオペラ。演出の鶴山仁が三島戯曲の美文調そのままに上演台本を作成。“オペラは演劇のひとつのジャンルであり総合的なエンタテインメントであるべき”と考える作曲家によって美しい旋律と巧みなオーケストレーションで作品は描き出されています。物語は、明治維新を舞台に繰り広げられる父子や男女の心理を緻密に描いた愛憎劇。クライマックスの舞踏会シーンでは社会に潜む民衆の怒りや、外国人の嘲笑的となった表面的な文明開化をあからさまに揶揄する演出など、近代化の光と影を表現しています。指揮は新国立劇場初登場の飯森範親、ソリストには、黒田博、大倉由紀枝ほか日本オペラの中核を担うソリストが名を連ねます。



2010年公演より

あらすじ

明治19年11月3日、天長節。明治政府によって建てられ、西欧化の象徴と称された鹿鳴館で、欧化政策の中核にあった影山伯爵主催による舞踏会が行われようとしていた。元芸者であった影山の妻の朝子は、夫にすら心を開かず、和装を貫き公の場にその美しい姿を現さない。朝子は、友人である大徳寺侯爵夫人季子からその娘顕子の恋人について相談を持ちかけられる。青年の名前は清原久雄。その晩、鹿鳴館の舞踏会に乱入し、影山伯爵の暗殺を企てているという。これを聞き愕然とする朝子。久雄は、新橋の芸者時代に恋仲にあった反政府派のリーダー清原との間に産まれた子だった。朝子は、自分を母と知らぬ久雄を呼び寄せ、舞踏会への乱入を思いとどまるよう言い聞かせるうちに、感極まって自分が母親であると打ち明ける。しかし、驚いたことに久雄のねらいは影山伯爵ではなく、父親である清原永之輔の殺害だと知る。我が子久雄と未だ愛するかつての恋人清原の両方を助けるために、奔走する朝子。腹心の女中頭草乃の手引きで清原と密会し、反政府自由党残党の乱入計画の中止を約束させ、自らの信条を曲げて夜会の主催者として出席すると宣言する。朝子の安堵もつかの間、影山と刺客の密談を立ち聞き、清原永之輔暗殺計画の首謀者が影山であることを知る。影山は、久雄の父親への憎しみを利用して政敵清原を襲わせようとしていた。運命の夜、朝子は意を決し舞踏会へ出席する。流血の惨事は回避できたはずの鹿鳴館周辺で、銃声が響く。影山と密通する草乃におびき出された清原が、馬車に近づいてきた人影を息子とは知らずに撃ち殺してしまったのだ。清原は、舞踏会に現れ、乱入事件の真相を明らかにすると、朝子に別れを告げて姿を消す。遠くで再び銃声が響く。

Repertoire

レパートリー

Repertoire

鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

全4幕(日本語上演/字幕付)

原作……………三島由紀夫
Original by Mishima Yukio
指揮……………飯森範親
Conductor Iimori Norichika
上演台本……………鶴山仁
Libretto Adaptation by Uyama Hitoshi
演出……………鶴山仁
Production Uyama Hitoshi
作曲……………池辺晋一郎
Music by Ikebe Shinichiro
美術……………島次郎
Scenery Design Shima Jiro
衣裳……………前田文子
Costume Design Maeda Ayako
照明……………沢田祐二
Lighting Design Sawada Yuji
振付……………上田 遙
Choreographer Ueda Haruka

	(6月19・21日)	(6月20・22日)
影山悠敏伯爵……………	黒田 博	与那城 敬
Count Kageyama Hisatoshi	Kuroda Hiroshi	Yonashiro Kei
同夫人 朝子……………	大倉由紀枝	腰越満美
Countess Asako, his wife	Okura Yukie	Koshigoe Mami
大徳寺侯爵夫人 季子……………	手嶋眞佐子	谷口睦美
Marchioness Daitokuji Sueko	Teshima Masako	Taniguchi Mutsumi
その娘 顕子……………	高橋薫子	幸田浩子
Her daughter, Akiko	Takahashi Nobuko	Kouda Hiroko
清原永之輔……………	星野 淳	宮本益光
Kiyohara Einosuke	Hoshino Jun	Miyamoto Masumitsu
その息子 久雄……………	経種廉彦	鈴木 准
His son, Hisao	Idane Yasuhiko	Suzuki Jun
女中頭 草乃……………	山下牧子	小野和歌子
Kusano, a maid of the Kageyamas	Yamashita Makiko	Ono Wakako
宮村陸軍大将夫人 則子……………	鵜木絵里 (全日)	
General Miyamura's wife, Noriko	Unoki Eri	

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus
管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2014年6月19日(木) 6:30 21日(土) 2:00
20日(金) 6:30 22日(日) 2:00
中劇場

【チケット料金(税込)】
S: 15,750円・A: 12,600円・B: 8,400円・C: 6,300円・D: 3,150円
【前売開始】2014年3月1日(土)

鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

指揮：飯森範親

Conductor : Iimori Norichika

桐朋学園大学指揮科卒業後、ベルリンへ留学。89年からバイエルン州立歌劇場でW.サヴァリッシュ氏のもと研鑽を積む。94年東京交響楽団の専属指揮者に就任。96年には東京交響楽団創立50周年記念ヨーロッパツアーを指揮、特にミュンヘン公演は南ドイツ新聞で「今後、イイモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。94年、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者（～98年）に就任。95年から大阪のザ・カレッジ・オペラハウスを本拠とするオペラハウス管弦楽団の常任指揮者、2001年から首席指揮者、02年には名誉指揮者の称号を受ける。1995～2002年3月広島交響楽団正指揮者。04年シーズンより山形交響楽団の常任指揮者に着任し、オーケストラの活動発展と水準の向上に目覚ましい成果を挙げる。07年より音楽監督に就任。08年にはアカデミー賞映画「おくりびと」に「飯森&山響」コンビで出演。オーケストラとの活動を通し地域活性化に大きく貢献し、10年のビジネス・イノベーション・アワード大賞を受賞した。05年渡邊暁雄音楽基金音楽賞を受賞。06年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞など受賞多数。東京交響楽団と07年にヘンツェの『ルプバ』日本初演や、09年ヤナーチェク『プロウチェク氏の旅行』でセンセーショナルな成功を収めた。01年にドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団の音楽総監督に就任。現在、山形交響楽団音楽監督、東京交響楽団正指揮者、いづみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。海外ではフランクフルト放送交響楽団、ケルン放送交響楽団、チェコフィルハーモニー管弦楽団、モスクワ放送交響楽団、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団、パーゼル交響楽団、プラハ交響楽団など世界的なオーケストラを指揮するほか、ドルトムント歌劇場などにも客演。新国立劇場初登場。



演出：鶴山 仁

Production : Uyama Hitoshi

慶応義塾大学フランス文学科卒業。舞台芸術学院を経て文学座附属研究所に入所、劇団員に。初演出は1982年文学座アトリエ公演『プラハ1975』。以降、精力的な演出活動が続いている。83年から1年半、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2007年9月より10年8月まで新国立劇場演劇芸術監督。89年、芸術選奨文部大臣新人賞、1999年「おばかさんの夕食会」『夢の島イニシュマー』の演出で、第2回毎日芸術賞千田是也賞、2001年新国立劇場『コペンハーゲン』で紀伊國屋演劇賞個人賞と読売演劇大賞優秀演出家賞、03年『ニュルンベルグ裁判』（ひょうご舞台芸術）などにより読売演劇大賞の大賞・最優秀演出家賞、07年『ゆるる車の音』（文学座）などにより読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞、09年『ヘンリー六世』で芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。そのほかの主な演出作品に、『グリークス』（第25回紀伊國屋演劇賞団体賞）、『缶詰』（第55回文化庁芸術祭最優秀賞）、『ザ・ウィアー（堰）』（以上文学座）、『雪やこんこん』『父と暮せば』（以上こまつ座）など、またオペラでも数々の話題作を手がけている。新国立劇場では、上記受賞作品『コペンハーゲン』『ヘンリー六世』のほか、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢』『現代能楽集 鶴』『イロアセル』『リチャード三世』、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出している。



鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

影山悠敏伯爵：黒田 博

Count Kageyama Hisatoshi : Kuroda Hiroshi

京都市立芸術大学卒業、東京藝術大学大学院修了。1989年よりミラノへ留学。92年『ラ・ボエーム』シヨナルで二期会デビュー。以後モーツァルトの四大オペラや新国立劇場『天守物語』『こうもり』『ナクソス島のアリアドネ』『忠臣蔵』などに出演。二期会創立50周年記念公演『ニュルンベルグのマイスタージンガー』ハンス・ザックス、日生劇場開場40周年記念公演『ルル』ではシェーン博士と切り裂きジャックの二役を演じる。新国立劇場『俊寛』、東京二期会『ドン・ジョヴァンニ』にそれぞれタイトルロールで主演。2006年東京二期会『フィガロの結婚』ではアルマヴィーヴァ伯爵で舞台を牽引。その後も新国立劇場への出演や東京二期会『エウゲニ・オネーギン』タイトルロールなど大役が続き、10年新国立劇場『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、11年には東京二期会・ラインドイツオペラ共同制作『ドン・ジョヴァンニ』に主演、12年びわ湖ホールと神奈川県民ホールにおいて、アメリカ・サンディエゴ歌劇場との提携公演として、ワーグナー『タンホイザー』ヴォルフラムにも出演。常に聴衆の期待を裏切らない逸材である。新国立劇場での主演も数多く、2012/2013シーズンは『夜叉ヶ池』学円に出演予定。03年度京都市芸術新人賞受賞。国立音楽大学准教授。二期会会員。



影山悠敏伯爵：与那城 敬

Count Kageyama Hisatoshi : Yonashiro Kei

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。大学卒業後才能を認められ声楽に転向、同大学研究科声楽専攻修了。二期会オペラ研修所第46期本科修了。修了時に奨励賞を受賞。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。奏楽堂日本歌曲コンクール第1位、中田喜直賞受賞。マリオ・デル・モナコ国際声楽コンクール（イタリア・マルサラ）第3位（1位なし）入賞。2006年、東京二期会公演『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『エウゲニ・オネーギン』オネーギンに抜擢される。09年横須賀芸術劇場オペラ：パーセル『ダイドーとイニニアス』イニニアス、09年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『トゥーランドット』、佐渡裕プロデュース『カルメン』など活躍が続く。10年は「NHKニューイヤーパーラコンサート」に初出演を果たす。最近では二期会創立60周年記念公演『メデア』メデアの夫イヤソンに出演し好評を博す。13年2月にファースト・アルバムをリリース予定。新国立劇場には10年の『愛の妙薬』ベルコーレで際立つ存在感を示した。また『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、『沈黙』フェレイラ、『ドン・ジョヴァンニ』（演奏会形式）などに出演している。二期会会員。



影山伯爵夫人 朝子：大倉由紀枝

Countess Asako : Okura Yukie

国立音楽大学卒業。東京藝術大学大学院修了。第13回民音コンクール第1位受賞。イタリアに留学後、『カプレッティ家とモンテッキ家』ジュリエッタでデビュー。これまで『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ドンナ・エルヴィーラ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルデリージ、小澤征爾指揮『ホフマン物語』ソプラノの四役、『魔笛』パミーナなどに主演し高い評価を得ている。また、1990年二期会創立40周年記念公演『お蝶夫人』ではタイトルロールを演じる。93年二期会公演『シモン・ボッカネグラ』アメリア、95年『黒船』で主役お吉を演じる。2002年二期会創立50周年記念公演『フィガロの結婚』伯爵夫人、同年二期会＝ケルン市立歌劇場共同制作『ばらの騎士』の元師夫人と、相次いでR.シュトラウスの大役を演じた。コンサート活動でも著名な指揮者やオーケストラと数多く共演している。新国立劇場では1998年と2003年『アラベッラ』タイトルロール、10年『鹿鳴館』影山伯爵夫人朝子に出演、艶やかな演唱で喝采を浴びた。二期会会員。



鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

影山伯爵夫人 朝子：腰越満美

Countess Asako : Koshigoe Mami

東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース修了。二期会オペラスタジオ第35期修了。修了時最優秀賞及び川崎静子賞受賞。文化庁オペラ研修所第9期修了。文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリアに留学。1995年フェルッチョ・タリアヴィーニ国際コンクール第1位。これまで東京二期会『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『メリー・ウイダー』ハンナ、『天国と地獄』ユーリディスなど数々のオペラに出演。2005年中米・コスタリカでの『蝶々夫人』タイトルロールで熱狂的な成功を収め、地元各紙から絶賛された。華のある舞台姿と柔軟な音楽性でオペレッタでも活躍している。新国立劇場には開場記念公演『建・TAKERU』夏乃に始まり、『マノン』プセット、『リゴレット』チェブラーノ伯爵夫人、『忠臣蔵』綾衣、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『黒船 一夜明け』お吉、『鹿鳴館』影山伯爵夫人朝子、『夕鶴』つうなど多くの公演に出演し、常に高い評価を得ている。二期会会員。



朝子：高橋薫子

Akiko : Takahashi Nobuko

国立音楽大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。田島好一氏に師事。第23回ジロー・オペラ賞新人賞、第26回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞など受賞多数。1991年から93年まで五島記念文化財団の奨学生としてミラノに留学。90年藤原歌劇団公演『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナで本格的オペラデビュー。2001年チョン・ミョンフン指揮『魔弾の射手』、02年東京室内歌劇場ブーランク作曲『声』、07年『アルチーナ』にも出演。最近では09年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『トゥーランドット』リュウ、藤原歌劇団公演『愛の妙薬』アディーナ、10年『タンクレーディ』アメナイーデ、12年『夢遊病の女』アミーナ、びわ湖ホール・バーゼル歌劇場共同制作沼尻竜典オペラセレクション『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナなどに出演し歌唱力と演技力を高く評価されている。新国立劇場には1998年『魔笛』パバゲーナで初登場、2000年と01年、08年『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、02年『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、12年には初の日本オペラ『沈黙』オハルに出演した。藤原歌劇団団員。

朝子：幸田浩子

Akiko : Kouda Hiroko

東京藝術大学首席卒業。同大学院及び文化庁オペラ研修所修了後ポーニャとウィーンで研鑽を積む。数々の国際コンクールで上位入賞後、欧州の主要歌劇場へ次々とデビュー。ベッリーニ大劇場『清教徒』エルヴィーラ、ローマ歌劇場『ホフマン物語』オランピア、シュトゥットガルト歌劇場『皇帝ティトの慈悲』セルヴィーリアなど主要な役を演じて活躍後、2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。専属を離れてからも『魔笛』夜の女王などで客演。日本では二期会『ばらの騎士』ゾフィーなど主役級を演じる他、主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、更にはNHK-FM『気ままにクラシック』で4年間パーソナリティを務めるなど多彩な活動を展開。12年10月からはBSフジ『レシピ・アン』にMCとしてレギュラー出演中。新国立劇場には『ナクス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『ホフマン物語』オランピア、『チェネントラ』クロリンダ、『鹿鳴館』朝子などに出演している。2013/2014シーズンは『ホフマン物語』オランピアにも出演を予定している。二期会会員。HP <http://columbia.jp/koudahiroko/>



鹿鳴館

Ikebe Shinichiro / Rokumeikan

清原久雄：経種廉彦

Hisao : Idane Yasuhiko

東京藝術大学音楽科卒業。同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。1988年イタリア音楽コンクールにおいて金賞を受賞。91年より文化庁芸術家在外研修員としてミラノに留学。オペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、『ファルスタッフ』フェントン、『椿姫』アルフレード、『祝い歌が流れる夜に』中川義男、『夕鶴』与ひょうなどを演じる。また96年ニッセイ・オペラシリーズ若杉弘指揮『火刑台上のジャンヌ・ダルク』裁判官、東京二期会『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドなど精力的に出演を重ね、大舞台で存在感を示している。新国立劇場には、開場記念公演『ローエングリン』ブラバントの貴族、『アラベッラ』マッテオ、『サロメ』5人のユダヤ人1、『愛怨』大野浄人、『イドメネオ』アルバーチェ、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『トゥーランドット』バン、『修禅寺物語』かえでの婿春彦、『鹿鳴館』清原久雄、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチのほか、小劇場オペラ『アブ・ハッサン』タイトルロール、こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』タイトルロールなど数多く出演している。二期会会員。



清原久雄：鈴木 准

Hisao : Suzuki Jun

北星学園大学文学部卒業。東京藝術大学音楽科卒業。卒業時、松田トシ賞並びにアカンサス音楽賞受賞。同大学大学院修士課程修了、博士号取得。2010年度に同大学の特別研究員としてイギリスに留学。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、一柳慧『愛の白夜』（新作初演）ヨーニスなどに出演。『マタイ受難曲』のエヴァンゲリストなどでも活躍。イギリスのバロック以前の作曲家や、ドイツ・ロマン派の作曲家の音楽アンサンブル作品にも積極的に取り組み、演奏会に多く出演。パッサ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして国内外の公演にも参加している。12年ベンジャミン・ブリテン『カーリユー・リヴァー』狂女役を、ロンドンとオースフォードの教会で演じ国際的評価を得た。澄み切ったリリック・テノールとして好評を博している。新国立劇場には、『イル・トロヴァトーレ』ルイス、『沈黙』モキチ、演奏会形式の『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドと『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオに出演している。2012/2013シーズンは1月の『タンホイザー』とヴァルトブルクの歌合戦』ハインリヒに出演。二期会会員。

